

環境調査結果のお知らせ

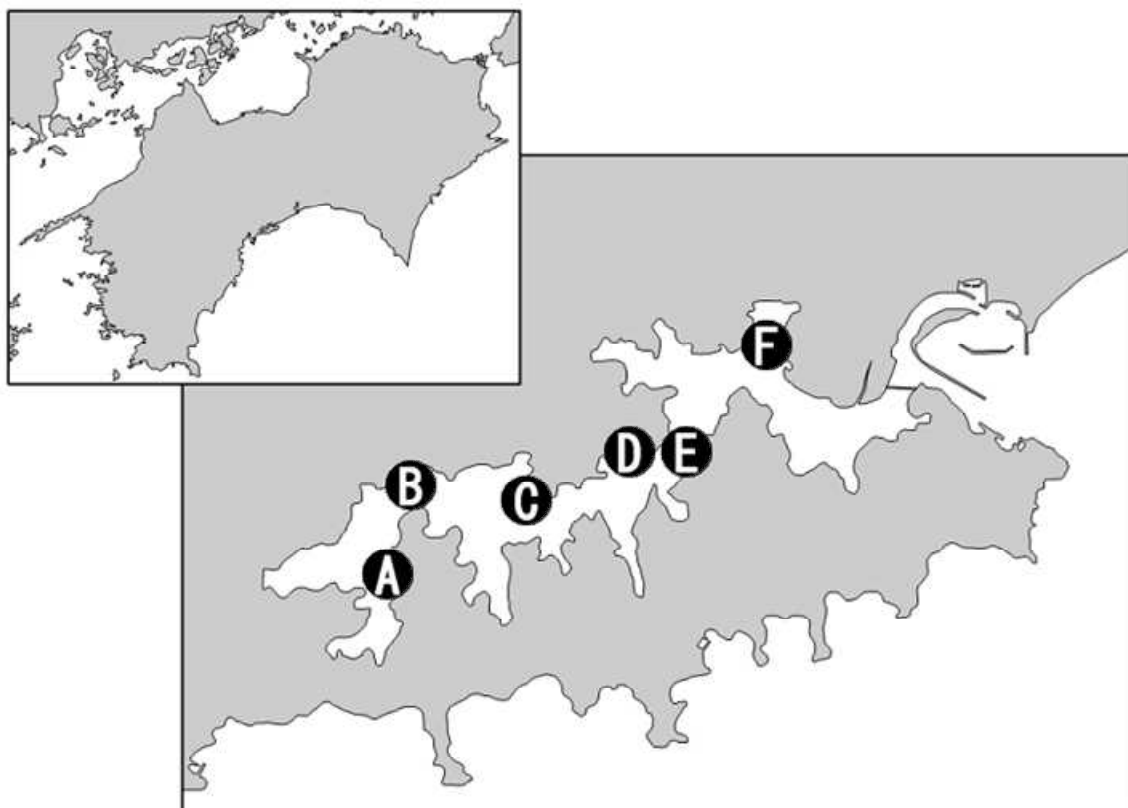
令和6年9月18日13時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で1 cell/mL確認されました。

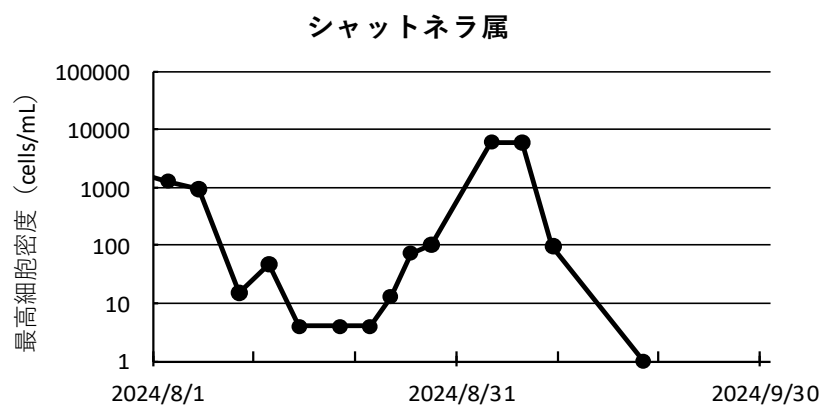
海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属
A 鳴無 (1.2m) 【13:38】	0	32.3	18.7	10.4	-
	2	32.0	26.9	10.8	-
	5	31.6	29.0	3.1	-
	底層 7.5	30.0	29.4	0.0	-
B 中学校前 (1.2m) 【13:44】	0	32.0	17.5	11.4	-
	2	31.2	26.2	11.2	-
	5	30.9	28.8	6.3	-
	10	29.6	29.7	0.0	-
	底層 11	29.5	29.8	0.0	-
C 目ノクソ (1.1m) 【13:51】	0	32.4	18.8	10.9	-
	2	30.9	26.6	11.7	-
	5	30.1	28.2	6.2	-
	10	29.7	29.7	0.1	-
	底層 14	29.1	30.8	0.0	-
D 光松 (1.1m) 【14:03】	0	32.0	21.0	11.1	0
	2	30.1	27.2	10.5	0
	5	29.5	28.2	5.3	0
	10	29.6	29.9	0.9	-
	底層 16	29.1	30.8	0.0	-
E 大鹿 (1.1m) 【14:08】	0	32.1	21.2	10.8	0
	2	30.3	26.9	10.7	1
	5	29.7	28.2	5.3	0
	10	29.7	29.7	1.0	-
	底層 15.5	29.2	30.8	0.0	-
F 水試小割前 (-) 【14:22】	0	31.5	24.1	10.1	-
	2	30.1	26.9	9.4	-
	5	29.5	28.7	4.2	-
	底層 7.5	29.4	29.0	3.0	-



- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿
- F: 水試小割前

令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。